

令和6年度全国学力・学習状況調査結果について

郡山市教育委員会

1 調査の概要

(1) 調査目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証してその改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査内容

① 教科に関する調査：() 内は問題数

- 小学校：国語(全 14 問)、算数(全 16 問)
- 中学校：国語(全 15 問)、数学(全 16 問)

② 質問調査

- 児童生徒質問・・・児童生徒に対する調査(学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査)
- 学校質問・・・学校に対する調査(指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査)

(3) 調査対象

- ① 小学校(義務教育学校前期課程を含む)：51校(6年生 2,376名)
- ② 中学校(義務教育学校後期課程を含む)：27校(3年生 2,424名)

2 調査結果の公表

- 各教科における平均正答率(各教科の問題数に対する正答数の割合)
- 各教科における結果と課題及び改善策
- 質問調査の結果と改善策(本市の特徴を表す項目を抜粋)

学校においては、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の育成のほか、豊かな心や健やかな体の育成にも取り組んでおり、大きな成果をあげているところです。本調査の結果は、特定の教科の一部分であり、学校における教育活動の一側面を表したものではありませんが、上記調査目的をふまえ、これからも保護者や市民の皆様と連携し本市学校教育の一層の充実に努めてまいります。

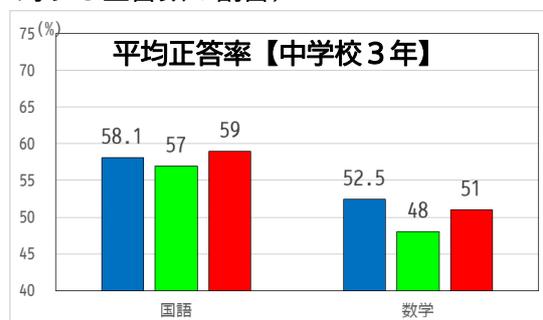
3 調査結果

(1) 結果概要

今回の調査における郡山市児童生徒の平均正答率は、以下のような結果となりました。

- 小学校6年 ... 国語が全国平均と同程度で、算数は全国平均を下回っています。
- 中学校3年 ... 国語が全国平均と同程度で、数学は全国平均をやや下回っています。

(2) 各教科における平均正答率(各教科の問題数に対する正答数の割合)



教科	国語	算数
問題数	14	16
全国(公立)	67.7%	63.4%
福島県	66%	60%
郡山市	67%	60%

教科	国語	数学
問題数	15	16
全国(公立)	58.1%	52.5%
福島県	57%	48%
郡山市	59%	51%

(3) 各教科における結果と課題及び改善策

① 本市における各教科の結果と課題、改善策

【小学校6年】

	結果	課題	改善策
国語	<p>全体の平均正答率は、全国平均と同程度です。</p> <p>「読むこと」の正答率は、全国平均を1.2ポイント上回っています。</p> <p>「話すこと、聞くこと」の正答率は2.6ポイント、「情報の扱い方に関する事項」については1.8ポイント全国平均を下回っています。</p> <p>「書くこと」の正答率は令和4年度、令和5年度と2年連続で全国平均を1ポイント以上下回っていましたが、今年度は全国平均と同程度になりました。さらに、記述式の問題形式での正答率は、全国平均を3.4ポイント上回っています。</p>	<p>「話すこと・聞くこと」については、日常生活の中から話題を決めたり、目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することに課題があります。 【問題番号1】一 【問題番号1】三</p> <p>「情報の扱い方に関する事項」については情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句の関係の表し方を理解して使うことに課題があります。 【問題番号2】一(2)</p>	<p>意見や提案など自分の考えを話したり、聞いたりする活動では、<u>目的や意図に合わせて</u>、集めた材料をどのように整理すればよいか考えたり、メモに整理したことがどのように役立ったのかを振り返ったりするように指導します。</p> <p>また、聞き手の求めていることに応じて材料を整理すること、伝える際の優先順位を考えることを指導します。</p> <p>さらに、関係する語句と語句、語句と図等を線をつないだり、情報をシンキングツール等で整理したりして、それぞれを関係付けて自分の考えを話したり、文章に表したりできるよう指導します。</p>
算数	<p>全体の平均正答率は、全国平均を下回っています。</p> <p>すべての領域において、全国平均を下回っており、特に「数と計算」の領域は4.1ポイント、「変化と関係」の領域は4.4ポイント、「データの活用」の領域は2.5ポイント、全国平均を下回っています。</p> <p>問題形式別にみると、過去3年間において、短答式と記述式で全国平均との差が大きい状態が続いています。</p>	<p>「数と計算」の領域では、除数が小数である場合の除法の計算をすること、問題場面の数量の関係を捉え、式に表すことに課題があります。 【問題番号1】(1) 【問題番号4】(1)</p> <p>「変化と関係」や「データの活用」の領域では、速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察すること、また、折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述することに課題があります。 【問題番号4】(2) 【問題番号5】(3)</p>	<p>「数と計算」の学習では、乗法や除法の性質を活用して、数量の関係を式で表したり、計算の仕方を工夫したりする場面を多く設定します。</p> <p>また、問題場面の数量の関係を捉える際には、問題の文脈に沿って図などに表す活動、または文脈に合った図を選択し、<u>その理由を説明</u>させる活動を設定します。</p> <p>「変化と関係」や「データの活用」の学習では、2つの数量の関係に着目し、表やグラフを正しく読みとったり、かいたりする活動を設定します。そこから分かることやその理由を話し合う活動を通して、数量などの性質を見だし、論理的に考察して表現することができるよう指導します。</p>

【中学校3年】

	結 果	課 題	改 善 策
国語	<p>全体の平均正答率は、全国平均と同程度です。</p> <p>令和3年度小学校6年時の全国との差と比べると、差が縮まっており、小中連携を強化しての指導の成果が見られます。</p> <p>「話すこと・聞くこと」の領域は0.9ポイント、「読むこと」の領域は0.7ポイント全国平均をやや上回っています。</p> <p>「書くこと」の領域は全国平均と同程度の結果です。</p>	<p>「話すこと・聞くこと」については、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫することに課題があります。【問題番号1二】</p> <p>「書くこと」については、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することに課題があります。【問題番号3四】</p> <p>「読むこと」については、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えることに課題があります。【問題番号4二】</p>	<p>ペアやグループ等、少人数での話し合い場面において、話の<u>要点や根拠を明らかにしながら話す（アウトプット）活動</u>を多く設定します。</p> <p>各単元における言語活動を工夫し、考えと根拠の組み合わせが適切かを吟味したり、効果的な語句や表現を選んだりする活動を通して、互いの考えを比較・検討しながら、より説得力のある文章を書くことができるよう指導します。</p> <p>文章の中の言葉を手掛かりに読み取ることを徹底し、場面や描写を結び付けたり、根拠となる言葉を正しく引用したりしながら読むよう指導します。</p>
数学	<p>全体の平均正答率は、全国平均をやや下回っています。</p> <p>令和3年度小学校6年時の全国との差と比べると、差が縮まっており、小中連携を強化しての指導の成果が見られます。</p> <p>すべての領域において、全国平均を下回っており、特に「データの活用」の領域は2.9ポイント全国平均を下回っています。</p>	<p>「数と式」の領域では、目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することに課題があります。【問題番号6（2）】</p> <p>「データの活用」の領域では、複数の集団のデータの分布から、四分位範囲を比較することに課題があります。【問題番号7（3）】</p>	<p>数に関する事象を考察する場面では、成り立ちそうな事柄を予想し、その予想を確かめ、事柄が成り立つ理由について筋道を立てて考え説明する機会を設定します。問題の条件を変えるなどして、<u>統合的・発展的に考察</u>できるよう指導します。</p> <p>表やグラフ等からデータの傾向を読み取り、批判的に考察し判断する機会を設定します。判断の理由を数学的な表現を用いて<u>説明すること（アウトプット）</u>ができるよう指導します。</p> <p>学習内容の定着を図るために、毎時間、適用問題を解く時間を確保します。</p>

(4) 質問紙調査の結果と改善策

① 児童生徒質問紙

ア 「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」の合計が80%以上、または全国と比べて割合が上回っているなど、成果が見られた主な項目

質問事項	郡山小	全国小	郡山中	全国中
国語の勉強は大切だと思いますか	96.2	94.5	95.6	93.9
算数・数学の勉強は大切だと思いますか	96.2	94.6	89.2	87.2
学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	84.8	80.8	80.5	77.9
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	97.9	96.7	96.6	95.7
人の役に立つ人間になりたいと思いますか	96.8	95.9	96.2	95.2
人が困っているときは、進んで助けていますか	94.3	92.7	92.3	90.1
朝食を毎日食べていますか	94.4	93.7	92.0	91.2
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	91.7	91.6	93.4	92.5
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	85.6	82.9	83.0	80.7

イ 「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」の合計が50%以下、または全国と比べて割合が下回っているなど、課題が見られた主な項目

質問事項	郡山小	全国小	郡山中	全国中
学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（3時間以上）	10.4	11.6		
月曜日から金曜日、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか（2時間以上）			5.7	6.1
新聞を読んでいますか ※ 小学校は同値	11.6	11.6	7.0	7.3

ウ 分析

【「よさ」が見られたところ】

- 教科の学習が大切だと思っている児童生徒が多く、自分の学習について見直し、次の学習につなげようとしている。
- いじめはどんな理由があっても許されないとと思っている児童生徒が多く、人の役に立ちたい、人助けをしたい等、相手を思いやる道徳的心情が育っている。
- 朝食を毎日食べ、決まった時刻に起床・就寝している児童生徒が多く、基本的な生活習慣が身に付いている。

【「課題」が見られたところ】

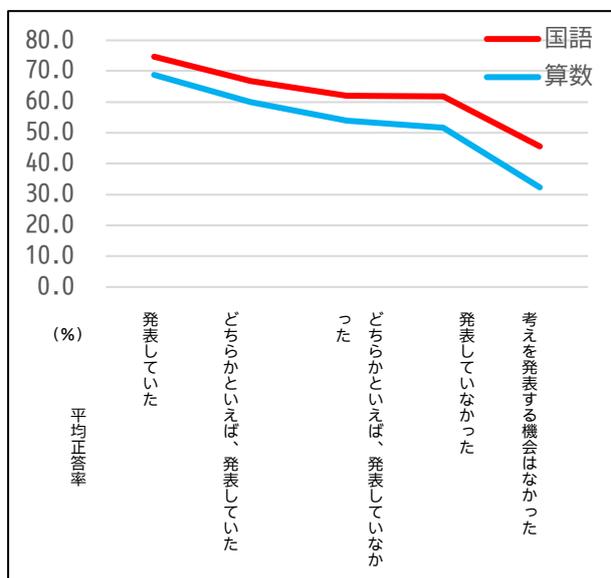
- 小学校においては、休日の家庭学習の時間が少なく、学年に応じた学習時間を設定することが必要である。
- 中学校においては、ICT機器を活用した学習が増え、家庭学習においても、効果的にICT機器を活用した学習が増えることが期待される。
- 校種が上がるにつれて、新聞を読む習慣が薄れていく傾向がある。

② 児童生徒質問紙と教科に関する調査結果のクロス集計

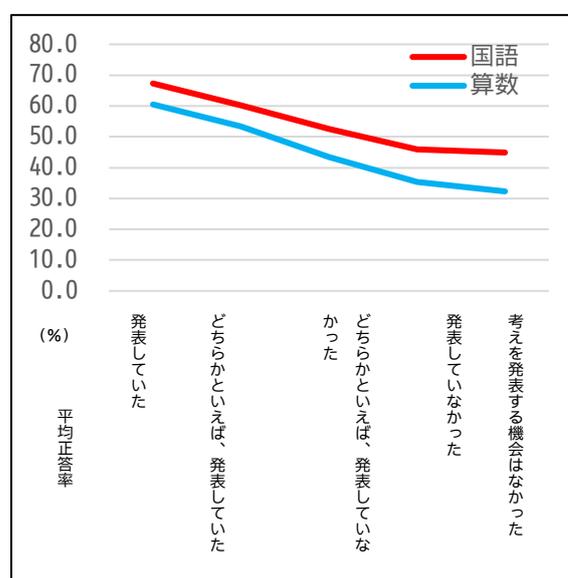
児童生徒質問紙の回答状況と各教科の平均正答率のクロス集計を実施した。縦軸が平均正答率を表している。

質問 小学5年生（中学1・2年生）までに受けた授業で、自分の考えを公表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。

ア 小学校の例

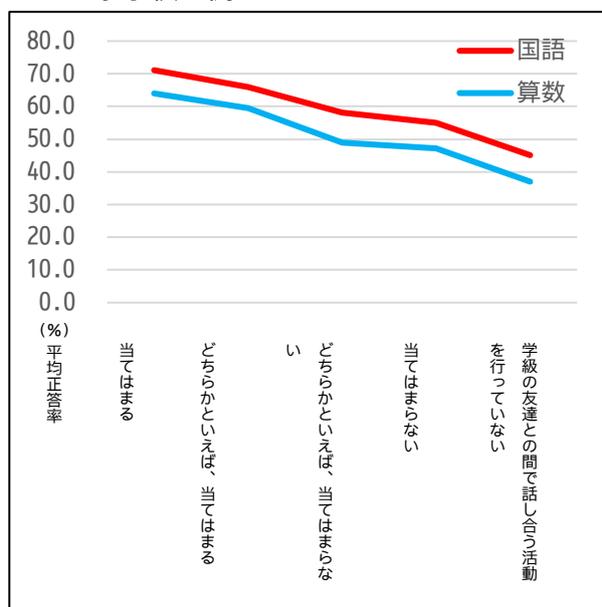


イ 中学校の例

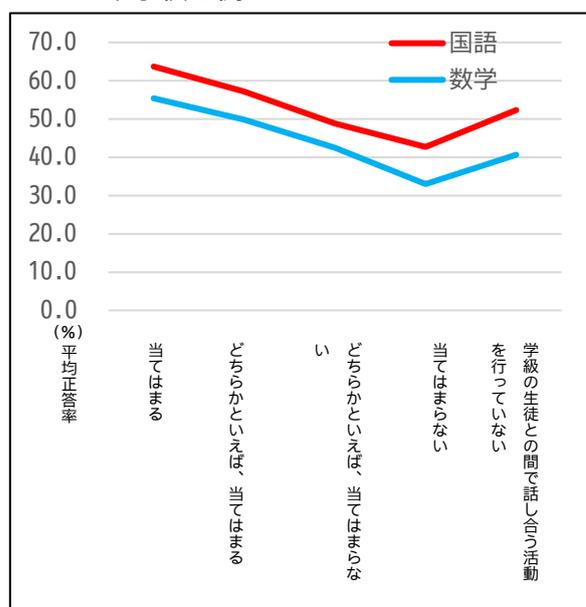


質問 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか

ア 小学校の例



イ 中学校の例



ウ 分析

発表する場において、自分の考えをどのように伝えるか工夫している、また、話し合い活動において自分の考えを深めたり広げたりする児童生徒ほど正答率が高いことから、以下のような学習活動を推進していきます。

- 問題の解答だけでなく、解答を求めるための過程や考え方を、言葉や文章で表現（アウトプット）する学習活動
- 協働的な学びの中で、学習したことや調べたことの根拠等を比較・検討したり、自分と友達の考えの共通点や相違点を比較・検討したりする学習活動

③ 学校質問紙

ア 「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」の合計が90%を上回っている主な項目

質問事項	郡山小	全国小	郡山中	全国中
児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか	100.0	97.0	100.0	96.5
調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、授業において、児童生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしましたか	98.1	95.8	100.0	96.3
調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか	90.2	89.3	92.6	85.1
前年度に、教員が大型提示装置等（プロジェクター、電子黒板等）のICT機器を活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか（週3回以上）	94.1	92.9	100.0	91.9
教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会はありますか	100.0	95.1	96.3	90.8
調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか（週3回以上）	100.0	93.1	100.0	90.8

イ 「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」の合計が全国平均との差が大きい主な項目

質問事項	郡山小	全国小	郡山中	全国中
調査対象学年の児童生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか（週3回以上）	74.5	55.1	85.2	70.4
教職員と調査対象学年の児童生徒がやりとりする場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか（週3回以上）	76.5	59.7	70.3	57.4
調査対象学年の児童生徒同士がやりとりする場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか（週3回以上）	58.8	45.0	59.2	41.1
調査対象学年の児童が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか（週3回以上）	68.6	52.8	55.5	42.2
前年度までに、近隣等の小（中）学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組をどの程度行いましたか	82.4	64.0	85.2	69.0

ウ 分析

- 児童生徒の考えをもとに思考させたり、話し合う活動を通して課題を解決させたりする授業を展開している学校が多い。
- 教員がICT機器の使い方に関する研修に積極的に取り組み、ICT機器を活用した授業が多く展開されており、考えを発表・表現したり、やりとりしたりする場面での効果的な活用がみられる。今後、さらに児童生徒同士のやりとりによる対話的な学びが増えていくことが期待される。
- 中学校区をもとにした小中接続・連携による、教科等での9年間の共通実践の取組が行われている。今後も、小中連携による共通課題の洗い出し、具体的な共通実践を継続していきたい。

* 文部科学省が公表している資料については、国立教育政策研究所ウェブページをご覧ください。
国立教育政策研究所 『全国学力・学習状況調査』

(URL <https://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>)

令和6年度調査

- ▶ 調査質問・正答例・解説資料について
- ▶ 報告書（授業アイデア例含む）・調査結果資料について
- ▶ 授業アイデア例一覧
- ▶ 学習指導の改善・充実に向けた説明会

